

2021/6/29-2

オマケの英語教室

今あるものを使おうシリーズ

身に着ける (wear) 書庫版



帽子を被る、眼鏡を掛ける、服を着る、靴や靴下をはく、時計をする、マスクをする等、日本語で言うと「被る」「掛ける」「着る」「履く」「する」と全く違った動詞（単語）が出てくるわけですが、英語ではこれらはすべて wear 一語になります。

Wear a cap, wear eyeglasses, wear clothes, wear shoes, wear a wristwatch, wear a facemask.  
どれも同じ wear。

どういうことかということ、英語の wear という動詞には「身に着ける」と言う包括的な概念があるだけなのです。

その「身に着ける」という包括的概念が「頭」に割り当てられたら「帽子を被る」となり、

「目」に当てはめられたら「眼鏡を掛ける」（コンタクトレンズでも一緒です）になり

「胴体」だと「服を着る」

「足元」だと「靴や靴下を履く」

そして「手首」だと「腕時計をする」

「顔」だと「マスクをする」に変化するわけです。

無論日本語側で動詞が変化しているだけで、英語側では一貫して「身に着ける」という概念は変化しておらず、動詞も一語切で、その他には変化しないのです。

ご覧になられてお分かりになります通り、日本語側では一対一の対関係で単語が発生しているのに対し、英語側では一対多、一つが多くを包含しているのです。

ですので、外国人から見ると日本語は途轍もなく語彙が多く、難しい言語に感じられるわけです。

逆に言うと英語は、末尾の目的語（帽子、眼鏡、服、靴、時計、マスク）を変えるだけで、  
どんどん対応ができてしまうので英語が母国語ではない外国人から見ても英語はフレキシ  
ビリティに富み臨機応変に使いこなせる言語に思えるわけです。

それで彼らは「英語は簡単で便利な言葉」であるといい「日本の人は、日本語みたいに難し  
い言語を自由自在に操れるのに、なんで英語みたいなイージーな言葉が喋れないのか」不  
思議でならない訳です。

なんでそんなにお茶の子芥々で便利な言葉をオマケや余禄、余技でもいいから使わないの  
か？も不思議でならない訳です。

母国語が英語でない外国人さんの掴んでいる、そのコツさえ共有できれば皆さんはもっと  
英語が喋れるはずですよ。

つまり日本語側から見ると日本語一語に対して相対（あいたい）英単語が同数存在すると思  
い込んでいるので、途轍もない英単語数を覚えなくてはいけないという妄念に捕らわれて  
おりますが、その妄念が解け、主要動詞の肝になる概念だけ幾つか掴んでおきさえすれば、  
後はその場でいくらでも語彙数に当たる表現数を作り出せるのだという英語に対する「思  
い込みのウロコが目から剥がれ落ち」クリアーな視界を得て全く新しいポジションに立て  
るような気がするのですが、いかがでしょうか？